



みさと
わくわく
プロジェクト

第3期美郷町総合戦略（概要版）

まちで楽しく過ごしたいよね みさとわくわくプロジェクト

第3期美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略(総合戦略)は、美郷町に住み続けたい、魅力的なまちづくりを進めていくために、住民、地域団体、事業者など、たくさんの方に参加いただき、戦略づくりを進めてきました。そうして定めた総合戦略の基本理念は、「～まちで楽しく過ごしたいよね～みさとわくわくプロジェクト」です。

この基本理念を実現していくためには、役場の施策・事業とともに、町民の主体的な活動や、役場と町民の協働による取り組みが重要です。その上で大切となるのは、これらの担い手である町民や役場職員のアクションの原動力となる「わくわく」という気持ちです。一人ひとりが地域の未来に楽しみや希望を持ち、「わくわく」しながら、日々の暮らしや地域活動を行っていくことが美郷の目指す姿だと考え、「みさとわくわくプロジェクト」としました。

また、「まちで楽しく過ごしたいよね」には、町民が楽しく過ごせる町でありたい、楽しく過ごせると感じてほしいという思いを込めました。そのためには、まずは、美郷町内で楽しい時間を過ごせるようなさまざまな活動を生み出していくこと、そして、そのプロセス自体も楽しむことが大切だと考えています。加えて、地域の中でのヒトやモノ、コト、情報などがつながることにより、美郷町がひとつの「町」として、まちづくりを進めていくことを表現しています。

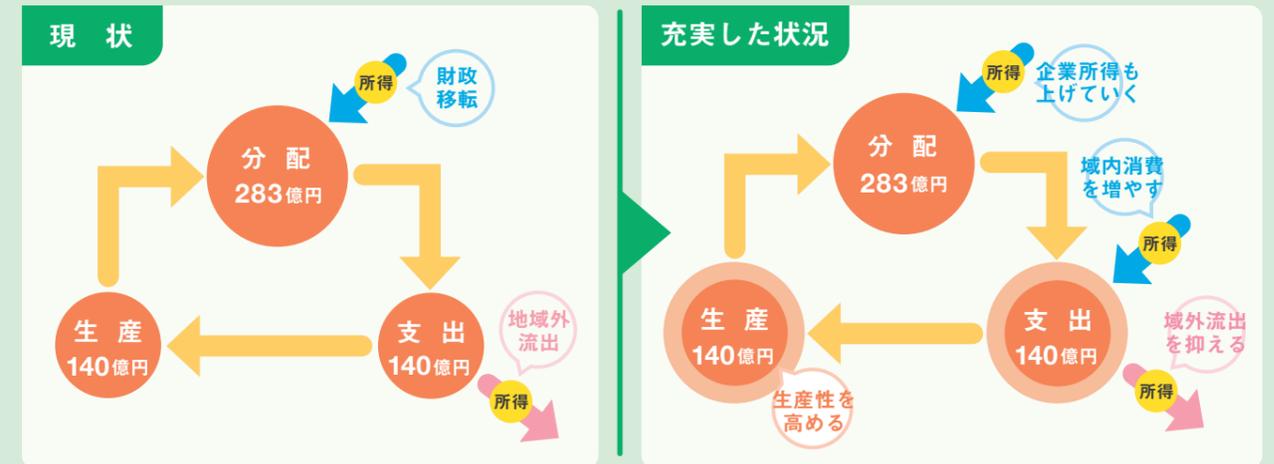
町民一人ひとりの「わくわく」からみんなの「楽しさ」を生み出す美郷町へ。

そして、地域外の人たちとのつながりや、さまざまな連携を生み出し、美郷町からたくさんの「わくわく」を広げていきましょう。

美郷町の経済循環

美郷町の地域経済に目を向けると、地域全体で循環する所得において、財政移転(政府支出—税金)などが大きなウエイトをもっており、地域住民の地域内での消費額は低く、全体として所得が地域外に流出しています。

地域の暮らしを支えるために、地域経済循環の視点も重要です。地域の産業構造を支える農業を中心に、関連するサービスやソフト面の整備、加工や販売面を充実させていくこと、また、地域内で起業などの新たなチャレンジを支え、暮らしを支えるサービスを含めて地域資源を活用した幅広い取り組みを生み出していくことが望まれます。地域経済の活性化により地域内での消費額を増やし、地域経済循環の充実を目指します。



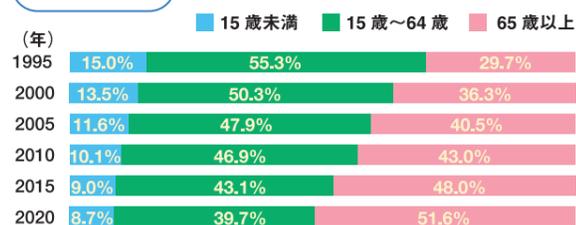
まち・ひと・しごと創生 総合戦略(総合戦略)とは

美郷町の人口減少は今後も続き、20年後の2045年(令和27年)には現在の4300人(令和6年)から2316人になる見込みとなっています。総合戦略は、このような人口減少社会に対応していくために、「まち」「ひと」「しごと」に視点を置き、今後の目標やまちづくりの方向性を定め、具体的に取り組んでいくための計画です。人口減少を短期的な取り組みで食い止めることは不可能ですが、町全体でさまざまな取り組みを重ねていくことで3,000人を維持するよう展望しています。

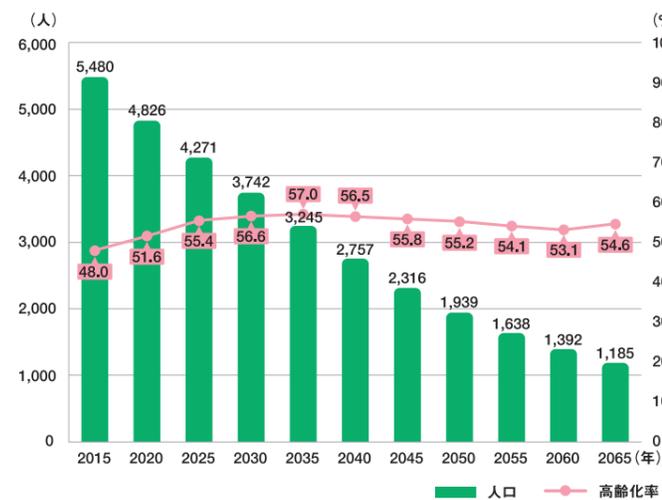
人口・世帯数の推移



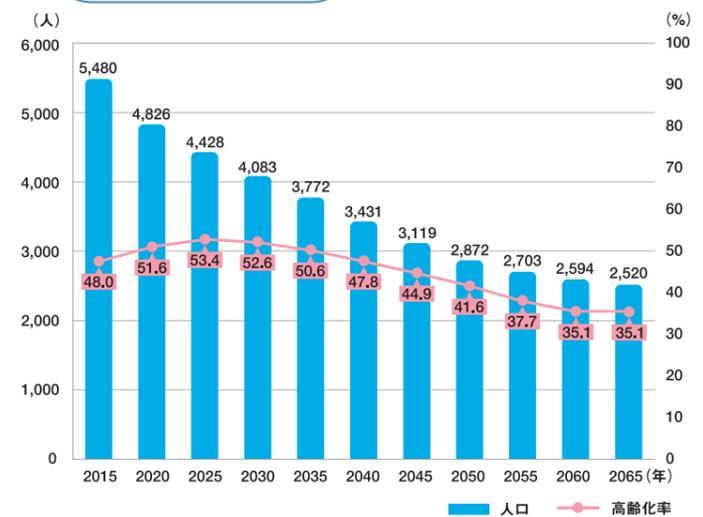
年齢構成



今後の人口予測 (現行推移モデル)



今後の人口予測 (世帯別型・移住モデル)



まちづくりの方向性
**ほどよいつながりが生み出す
 循環のある美郷町**
 - 貨幣及び貨幣以外の循環の可能性 -

美郷町には、豊かな自然環境や歴史文化、生活の知恵、地域での助け合いなどを背景とした、都市部では失われてきた人のつながりが受け継がれています。これからも、家族や近隣、地域、さらには美郷町の内外の人たちとの顔が見える関係性(面識関係)をさらに充実させていく必要があります。多様な価値観が混在し、デジタル技術を活用した新たな暮らし方が可能となった現代において、町民一人ひとりの自律的な生き方やライフスタイルを尊重しつつ、それぞれが心地よいコミュニケーションや経済活動など、面識関係を大切にしながら展開していくことができる美郷町を目指します。

「あの人が丹精込めてつくったものだから大切に使おう」、「この人にお世話になったから今度お返ししよう」、「あの人と一緒に夢に向かってチャレンジできそう」といったつながりは、単なる消費的なつながりではなく、町民の皆さんの自己実現やウェルビーイング、さらにはまちづくり活動にもつながる価値を含んでいます。

この「ほどよいつながり」を大切に、さらには新たに生み出しながら、お金の消費的なやりとりだけではなく、多様な価値が循環する地域をつくっていくことがますます重要になりますし、美郷町だからできることだと考えます。加えて、それは、日本、そして世界の未来にも希望を示すことになると確信しています。私たちは「ほどよいつながり」によって、お金だけではなく多様な価値(生きがい、趣味、仲間、学び、健康、役割、地域への誇り、チャレンジなど)が生まれ、地域を巡っていくことによって、美郷町が元気になっていくと考えます。



基本目標と重点的な取り組み

まちづくりの方向性である「ほどよいつながりが生み出す循環のある美郷町」を実現していくために、3つの指標と5つの基本目標を定めました。そして、その目標を実現するために、以下の重点的な取り組みを進めていきます。

3つの指標

- ① 社会増減数 ————— 1人以上
- ② 活動人口 ————— 420人/年(2029年度)
- ③ 関係人口 ————— 4,200人/年(2029年度)

※①は、転入者から転出者を差し引いた数を示します。

※②は、第3期美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略における新たな施策を実施することで創出する、町民による各種プログラム、イベント、社会教育および体育活動等を企画・実施する延べ人数等を指します。

※③は、第3期美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略における新たな施策を実施することで創出する、各種イベントや体験プログラム、ワークショップ等に参加する延べ人数等を指します。

1 会えるきっかけと場所がある町

地域のつながりと活力を高めるために、そこに行けば、いつもの仲間や、新しい出会いがある。会えるきっかけと場所がある町を目指します。

重点的な取り組み 遊休施設などを活用した拠点づくり

地域の遊休施設などの有効活用を図ります。施設の活用案としてはコミュニティ拠点や文化交流の場の他に、子どもの遊び場、カフェ、コワーキングスペース、私設図書館、企業誘致などを見込んでいます。複合的に活用できる拠点施設の整備の運用も含めて検討を行い、実施可能なものから順次取り組んでいきます。

2 学び合い楽しみを分け合える町

地域にあるものを生かしながら文化や技術などを伝え合う、美郷ならではの学びや楽しみが広がる町を目指します。

重点的な取り組み みさと大学の開校

夏休み限定で開校される「みさと大学」は、参加者が互いに教え合い、学び合うことで、知識や経験を共有し、コミュニティの絆を深めることを目的としています。「誰でも先生」「誰でも生徒」という合言葉のもと、参加者全員が主体的に関わり、学びの場を創出します。

3 子どもたちが毎日楽しい町

子どもたちが毎日楽しく過ごせるために、子育てしやすい環境を整えるとともに、子どもたちの居場所を生み出す町を目指します。

重点的な取り組み こぞって(みさと総合文化クラブの設立)

空き家などを活用して、音楽、美術、地域の歴史文化など多様な文化活動を友達や地域住民と交流しながら楽しむことができる居場所をつくります。学校外での活動を通じて、多様な学びの機会が提供され、子どもたちは教室では得られない実践的な経験を積むことができ、自身の成長にもつながり、より豊かな文化活動が展開されることが期待されます。

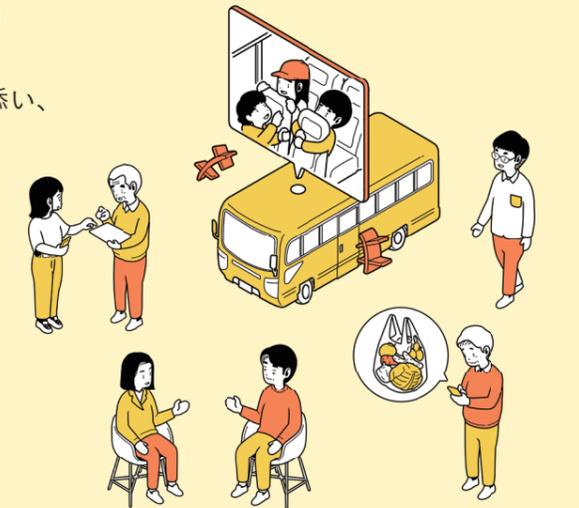


4 支え合いが広がる町

住民が美郷町で安心して暮らしていくために、生活に寄り添い、地域での助け合いや困り事を解決し合える町を目指します。

重点的な取り組み ちょこのリプロジェクト

町で運行している町内の通院や買い物など、様々な用途に応じた移動手段の確保としてコミュニティバスの改善・充実や、コミュニティバスではカバーできない移動需要について、多角的な視点から研究して、地域全体の移動支援の充実を図ります。



5 美郷ならではの味わえる町

地産地消の促進や食文化の継承を目指し、魅力を町内外の人に感じてもらうため、美郷ならではの味わえる町を目指します。

重点的な取り組み 町民に向けた情報発信強化

町民に向けた町内の観光スポットや文化財、特産品を紹介するDRIVE TO MISATO ツアーを行います。町に対する理解が深まるだけでなく、町民同士が交流することで、地域全体のコミュニティ強化に繋がっていきます。

また、コミュニティラジオを開設し、町の特色を生かした「美郷町ならではの」番組やニュースを発信します。町内の生産者、店舗、人物、場所を知ること、地域経済を活性化するための手段として活用が期待でき、地域の防災や災害情報など町民が必要とする重要な情報をリアルタイムで届けるための手段としても有効です。



総合戦略づくりのプロセス

本戦略は、町民への聞き取り調査や、公募で集まった町民や美郷町に関係する人たちによるワークショップで集めた意見をもとに、美郷町役場職員の有志で結成した策定ワーキンググループで素案作成を進めてきました。そして、町役場職員全員を対象に実施した職員研修などを通じてブラッシュアップするとともに、関係課を集めて実施した重点施策検討ワークショップで基本目標ごとに設定した重点施策を検討し、創生本部会議・懇話会などによる審議を経て策定しました。



南郷地区ワークショップ



北郷地区ワークショップ



西郷地区ワークショップ



全体職員研修



策定ワーキンググループ

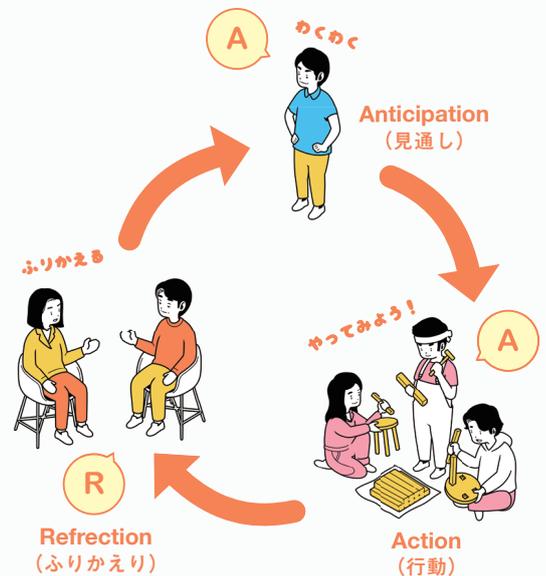


重点施策検討ワークショップ

総合戦略の実践に向けて

総合戦略は策定するだけでなく、美郷町役場、町民、事業者が協力し、それぞれが主体的に取り組み、戦略で描いた基本理念「まちで楽しく過ごしたいよね」を実現していくことが大切です。

そして、自分の「楽しい・好き」から企画を生み出し、小さくやってみるなど一歩踏み出したあと、さらに「楽しい・好き」が生まれるサイクルをつくることで、取り組みは継続していきます。そのサイクルとは①ニヤニヤ、わくわくすることを思い浮かべる、②実際にやってみる、③ふりかえる、を繰り返すことです。これは「AARサイクル」と呼ばれる学びのサイクルで、OECD（経済協力開発機構）が次代に向けて示した新たな学習枠組みの中で紹介されたもので、見通し（Anticipation）・行動（Action）・ふりかえり（Refrection）の3つで構成されています。



2025年3月発行

発行 宮崎県美郷町役場政策推進室
〒883-1101 宮崎県東臼杵郡美郷町西郷田代1番地

編集 studio-L (林彩華、醍醐孝典、洪華奈、朝倉慎一)

デザイン 藤山綾子 (studio-L)

イラスト ZUJUAN

美郷町 All right reserved

本書の内容はすべて、著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、美郷町および株式会社 studio-L から文書の許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。